



各種検診・健診事業を通して地域の総合的な健康支援を展開

医療法人健康支援三恵 さんけい 奈良県北葛城郡広陵町

『さんけいグループ』は、1991年に設立された、検診事業と介護事業を通じて奈良県内全域の健康支援を総合的に手掛ける企業体である。同グループは、各種健診（健康診断）サービスや巡回検診（特定の病気を探すための検査）事業を展開する『医療法人健康支援三恵』と、介護付き有料老人ホーム・デイサービス・居宅訪問介護などの各種介護事業を展開する『株式会社三恵健康倶楽部』から構成される。

そのうち医療法人健康支援三恵では、最新機器を導入し質の高い検診・健診・人間ドックサービスを提供する『三恵クリニック』を2019年4月に広陵町にオープン。

グループ全体の充実した設備・組織体制のもと、検診事業と介護事業を通じて「安心と豊かさ」をモットーに地元の人々に寄り添い、より明るい地域の未来と健康を支え続ける。

地域に密着して各種検診・健診を実施

大分県出身の矢形啓二理事長（64歳）は、高校卒業後大阪に移り、診療放射線技師という仕事を知って学校に通い資格を取得。そのまま大阪で技師の仕事をしていましたが、奈良県王寺町である病院がオープンする際、胃透視検査をできる技師を募集しており、それに学校から推薦されて就職し奈良に居を移した。

その後、その病院が厚労省所管の日本予防医学協会から巡回型胃がん検診事業の拡大への協力を要請された際、病院の理事長から「検診車を貸し出すなど応援するから独立して胃がん検診事業を始めてはどうか」と後押しを受け、1991年に独立し(株)三恵健康倶楽部を設立した。

1993年に事業所健康診断業務を、1999年には河合町に三恵診療所を開設し事業所を訪問しての巡回健康診断業務を開始。次いで、市町村が実施主体である各種がん検診・特定健診についても受託を始め、2003年には奈良県内初のマンモグラフィ検診車による「巡回乳がん検診」をスタート。この巡回検診は当時全国でもほとんど取り組まれていない事業だったが、「フットワークが軽く自治体などのニーズに素早く対応していたのが評価されて事業が上手くいったのかもしれない」と矢形理事長は振り返る。

現在では県内約30市町村と集団検診・健診の契約を締結し、13台保有する検診車両（胃部・胸部レントゲン車、マンモグラフィ検診車、婦人科検診車など）を使って県南部・東部の山間部も含む各地に赴き、各種検診・健診サービスを法人・個人に提供。これまでのべ約3万人が利用し、県内各地の地域住民の健康維持に貢献している。

会社概要



矢形 理事長

会社名：医療法人健康支援三恵
所在地：奈良県北葛城郡広陵町
大字寺戸621-1
電話：0745-56-6701
FAX：0745-56-6702
設立：2009（平成21）年10月
代表者：理事長 矢形 啓二
資本金：1,500万円
従業員：約70名（パート含む）
事業内容：各種健康診断事業、検診事業、
診療所経営
URL：<http://sankei.nara.jp/>（さんけいグループ）

会社名：株式会社三恵健康倶楽部
所在地：奈良県北葛城郡河合町山坊459-1
電話：0745-57-1857
FAX：0745-57-3210
設立：1991（平成3）年3月
代表者：代表取締役 矢形 将大
資本金：1,600万円
従業員：約50名（パート含む）
事業内容：各種介護事業

充実した設備の『三恵クリニック』を開設

予防医学ニーズの高まりに応じて、2009年には検診部門を『医療法人健康支援三恵』として独立。さらに2019年4月には三恵診療所を『三恵クリニック』として広陵町に新築移転した。予防医学における様々なニーズに応えるべく、各種最新機器を導入し質の高い検診・健診・人間ドックサービスを提供開始。また、クリニックでの来院健診も完全予約制で受け入れ、休日健診も実施している。



(左上から時計回りに)『三恵クリニック』外観/ホテルのような落ち着いたデザインの受付/明るい吹き抜けロビー。2階の休憩コーナーからは隣接する馬見丘陵公園が眺められる/各種検診車両

公立病院でのMRI撮影等の検査順番待ちの問題が生じている中、同クリニックで検査を受託することでその緩和に貢献。近隣民間個人病院との連携も深め、同じく検査受託先になることで、地域全体の医療サービス充実の実現を目指している。

将来的には、検診機能に加え診療所機能の充実も展望。開設当初は内科・放射線科・婦人科を掲げているが、今後、施設内の最新鋭の各機器を活用し、地域の実情も踏まえながら、他の診療科を開設することも視野に入れている。

2019年10月には、広陵町のコミュニティバスがクリニック敷地内にバス停を設ける予定で、「クリニック2階の会議室を使って、地域向けに介護相談や保健指導を兼ねた健康教室のようなものも開催したい」という矢形理事長。広陵町からは住民向け集団検診実施の依頼もあり、「検査に特化して最新機器を備えた施設」という同クリニックの

特徴が地域への貢献につながり始めている。

今後は三恵クリニックの更なる充実を図る方針。「これまで巡回事業がベースだったので、拠点となるような大きな建物がなかった。この施設ができたことで、従業員が家族に『自分はここで働いている』と誇れるようになればうれしい」という。



(左上から時計回りに)女性専用の更衣室等を備えた検査スペース『レディースコーナー』/乳がん検診用最新鋭超音波検査機器(奈良県内初導入)/最新型の1.5テスラ高性能MRI/検査データはデジタル化し電子カルテシステムで管理

奈良県のがん死亡率減少幅日本一を目指す

64歳の今も検査技師として胃がん巡回検診を続ける矢形理事長。そうした長年の地域医療への貢献を認められ、2017年には「第45回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省・日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛)の都道府県表彰を受賞した。

「レントゲン巡回検診は、県南部の山間部の自治体に行けば、住民の半数近くが検診に来る一大イベント。お年寄りがとても喜んでくれて、現地で採れた果物などのお土産まで頂くことがある。仕事冥利に尽きるし、やりがいがある」という。

奈良県のがん検診受診率は全国平均よりも低い、「巡回検診や当クリニックでの検診を通して奈良県の受診率を上げ、がん死亡率減少幅日本一を目指し長寿県と呼ばれるようにしたい」と今後の夢を語る矢形理事長。予防医療による早期発見で医療費の削減にもつなげ、広く社会貢献を続けていく考えだ。

(吉村謙一、前田 徹)